

北川和彦教授の略歴および業績

1946年 9月15日生

学 歴

- 1970年 3月 一橋大学経済学部卒業
- 1972年 3月 一橋大学経済学研究科修士課程修了
- 1976年 3月 一橋大学経済学研究科博士課程単位取得退学
- 1976年 4月 鹿児島大学法文学部専任講師
- 1978年 4月 同大学助教授
- 1982年 4月 立教大学経済学部経済学科助教授
- 1995年 4月 同大学教授
- 2012年 4月 同大学名誉教授

【学内役職】

- 1989年 4月～1991年 3月 経済学科長・研究室主任
- 1999年 4月～2001年 3月 経済学部長・経済学研究科委員長・評議員
- 2007年 4月～2009年 3月 大学院主任

【所属学会】

経済理論学会，経済学史学会，日本経済学会

研 究 業 績

1. 「労働生産性概念に関する若干の考察」『一橋研究』27号，pp. 201-212，1974年 4月（単著論文）
2. 「新古典派集計的生産函数についての一論点」『一橋研究』29号，pp. 31-44，1975年 7月（単著論文）
3. 「スラッフア体系と「転形問題」」『一橋論叢』74巻 5号，pp. 71-89，1975年11月（単著論文）
4. 「新古典派価格論の検討」『現代の経済学・上』関恒義，青木書店，pp. 40-68，1978年 5月（単著論文）

5. 「異質資本と限界生産力説 線形計画論的取り扱いを中心として」『経済学論集』19巻, pp. 27-43, 鹿児島大学法文学部, 1981年3月(単著論文)
6. 『近代経済学入門』, 青木書店, 276p, 1981年6月(共編著)
7. 「ケインズ『一般理論』の意義と限界——マネタリストの「ケインズ批判」との関連で——」『経済』新日本出版社, 1983年5月
8. 「近代経済学との対比における労働価値説の意義」『資本論体系2.商品・貨幣』種瀬茂, 塚良三, 浜野俊一郎, 有斐閣, pp. 303-313, 1984年3月(単著論文)
9. 「現代「マクロ経済学」の検討」『経済』新日本出版社, 1985年3月号
10. 『経済原論』, 有斐閣, 228p, 1987年5月10日(共編著)
11. 「近代経済学の展開とケインズ革命」『経済学史概説』永井義雄, ミネルヴァ書房, p. 203-222, 1992年7月(単著論文)
12. 「ポスト・ケインズ派経済学」『経済学史概説』永井義雄, ミネルヴァ書房, pp. 277-298, 1992年7月(単著論文)
13. 『経済学のオプティクス』ミネルヴァ書房, 226p, 1994年4月10日(共編著)
14. 「価格・分配関係の決定と産出量・雇用量の決定」『立教経済学研究』第48巻第2号, pp. 127-133, 1994年10月(単著論文)
15. 「価格理論」『現代経済学への誘い』大塚勇一郎, 八千代出版, pp. 33-66, 1998年3月(単著論文)
16. 「「小さな政府」論の理論基盤 現代新古典派経済学の検討」『経済』新日本出版社, 2001年9月号
17. 「「投機と投資」『一般理論』第12章における記述に関する一考察」『立教経済学研究』第60巻第3号, pp. 17-34, 2007年1月

書評

1. 伊賀隆・菊本義治・藤原秀夫『マネタリストとケインジアン』(有斐閣, 1983年1月)『経済』新日本出版社, 1983年9月
2. John E. King (ed.) *An Alternative Macroeconomic Theory: The Kaleckian Model and Post-Keynesian Economics*, Kluwer Academic Publishers, 1996, vi + 228p. 『経済学史学会年報』第35号1997年11月
3. 関恒義『現代の経済原論』(実教出版1997年4月)『季刊労働総研』, 1999年1月